



# にじのはし幼稚園 園だより



令和7年1月号  
港区立にじのはし幼稚園  
園長 飯田 美弥



3学期が始まり、子どもたちの元気な声が戻ってきました。各御家庭で、楽しい年末年始を過ごしたことと思います。夏休み明けに久しぶりに会う子どもたちが大きくなったと感じるのはよくあることなのですが、夏休みの半分もない冬休み

明けに、どの子も大きくなったと感じるのを毎年不思議に思っています。年が変わることで、見えないところが成長しているのかもしれないですね。

『巳年』は“巳”と“実”をかけ、これまで努力してきたことが実を結び始める年だと言われています。また、蛇は脱皮をすることから、新たな挑戦や変化に前向きになると言われています。

さて、「前向きに」と言いますが、具体的にどんな関わりをすればいいのかというヒントが、日本教育新聞の記事にありました。要約すると、「日本では大昔から『言葉には魂が宿っていて、口に出した言葉通りの結果をもたらす力がある』という言い伝えがある。自分の言葉を一番近くで聞いているのは自分なので、プラスの言葉は言われた相手だけでなく、その言葉を発した自分にもプラスのエネルギーをもたらす。反対に、マイナスのエネルギーをもつ言葉をたくさん使うと、本当はできる力があるのに、できない方向に進んでしまうことがあるかもしれない。」「人は誰でもプラスの言葉もマイナスの言葉も吐くものだが、マイナスの言葉を使わないように気を付けると、『吐』の字の横棒（マイナス）が消えて『叶』という字になる。」とのことでした。お子さんの言葉遣いが気になるという悩みもよく聞かれますが、まずは身近な大人が、プラスの言葉を使うことを心がけてみるのはいかがでしょうか。つつい使っていたマイナス言葉を、意識してプラス言葉に変換することが、お子さんのやる気に火をつけたり、あるいは頑なになっていた心を和らげたりすることに繋がるかもしれません。

子どもが育つには、周囲の大人の日々の丁寧な関わりが必要です。今年も引き続き子どもの思いに寄り添い共感しながら、共に安心・安全の基地となって子どもを支え、子どもたちの内面を一緒に育んでいきましょう。

にじのはし幼稚園では、4月の就学・進級を見据えながら、3学期も遊びや生活、様々な行事を通して、一人ひとりを大切に育ててまいります。今学期も、本園の教育にご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

## 幼稚園経営計画 3 幼稚園経営の方針 <主体性を発揮する保護者>

<子どもの自己肯定感を主体的に育む保護者>

- ① 子どもの思いや成長に気付き、子育てに喜びを感じる保護者
- ② 生涯発達の鍵となるアタッチメントを築き、安心・安全の基地となって子どもを支える保護者
- ③ 学級の子どもたちの成長を先生や保護者同士で喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に理解や協力をし、園や地域と共に子どもを育む保護者